

第4回定例研究会

「サムライの日常—『褻』の常態化としての徳川武士—」

第4回定例研究会の講師には、国際日本文化研究センター 教授の笠谷和比古先生をお招きし、「サムライの日常—『褻』の常態化としての徳川武士—」というテーマで講演いただきました。笠谷和比古先生のご経歴は、下記の通りです。

【講師プロフィール】

1949年、神戸市出身。京都大学文学部史学科卒業。同大学院文学研究科修了、博士（文学）。96年4月より現職。ドイツ・チュービンゲン大学、ベルリン・フンボルト大学、中国・北京外国語学院、ベルギー・ルーヴァン・カトリック大学、フランス・パリ大学の各客員教授を歴任。専攻は日本近世史（武家社会論）。江戸時代の政治史研究を通じて、従来の江戸暗黒史観を打破する新たな歴史観を提唱。特に、大名家（藩）における主君「押込」の慣行の発見をとおして、従来の武士道観、忠義観を大きく変革する業績をあげた。著書に、『新訂 日暮砵』（校注、岩波文庫）、『主君「押込」の構造—近世大名と家臣団』（講談社学術文庫）、『近世武家社会の政治構造』（吉川弘文館）、『近世武家文書の研究』（法政大学出版会）、『江戸御留守居役』（吉川弘文館）、『関ヶ原合戦と近世の国制』（思文閣出版）、『武士道と日本型能力主義』（新潮選書）他

講師

笠谷 和比古氏（国際日本文化研究センター 教授）

テーマ

サムライの日常 —「褻」の常態化としての徳川武士—

講演日

2007年10月6日（土）14:00～17:00 受付開始 13:30～

場所

武庫川女子大学 甲子園会館 K205

申し込み

不要



©生活美学研究所

メモを取りながら聞いていらっしゃる方も多くおられました。



©生活美学研究所